京城新聞

●忠州旅行記（四）

三十日忠州　清風

鳥致院から清州迄の徒歩旅行の苦しさに、今度は愈々馬に乗らうと決心して、馬を傭ひに行つたが昨日大貨物の輸送の爲めに出拂つて一匹も居らぬと云ふ、去れにと云ふて馬の歸るのを待つ程緩閑した旅行じやないので、又も徒歩旅行をせにやならぬはめになつた、丁度八月の一日夜もまだ明けぬが心急ぎがさるゝから、がばと起きて旅裝を整へ、守備隊へ護衛兵の交渉に出掛けた、守備隊は昔は兩班でも住んで居た家であらう、韓人の家屋としては中々宏壯なものである、恐る／＼門を入つて隊長に面會を求めた、すると間もなく出て來て、何の用かと問はるゝ實は私は此んなものですが、此の度此れ／＼の用向きで忠州迄行くので甚だ恐縮ですがドウか護衛を付けて戴きたいと、常に似合ぬ愛嬌面して頼んだすると隊長は暫く考て居られたが、頗る氣の毒そうにそんな事ならドウにかして上げねばならぬが、實は目下暴徒討伐の爲め諸所に兵を出し其の上郵便護衛として數名の兵を出さねばならぬから、君に專屬の護衛は差上られぬと謝絶せられた謝絶されたからとて僕も危險な地へ護衛なしで行く譯には無論ゆかない、其れで押し強くドウにか都合は付きますまいかと頼んだ、全くの駄目らしい事までで今度は議論づくでやらうかと好思つた、勿論議論づくなら僕の方は勝つ理由がある、けれども議論して勝つた處で何の役にも立たぬので、今度は是非明日迄忠州に着かねばならぬから、今日行ける丈け行きたいが何んとか好方法はあるまいかと相談しかけた、すると隊長は其れなら今日午前十一時に此所を出て清安迄行く郵便遞送があるから其れには無論兵を付けるから其れと一所に出掛けたらどうです、清安迄は茲から五里ですから明日迄には忠州に行かれるでしやうと云はれる、其れじやそうしましやうと決めて宿に歸つた、連れの一人は餘り歸りが遲いので種々心配したと云ふ、實はこう／＼でと、交渉の顚末を話すと不都合じやありませんかと云ふ、其れは其うだが理屈を列べた處で駄目だからと、大人ぶつて見る、出發の時刻となつたので擔軍に荷物を背負はせ守備隊へ出掛けた、郵便が遲れたとかで、時間には出て來ぬ、正午も過ぎた頃やつと來た、遞送人三人、兵三名、我々の一行三名都合同行九名である、昨日は酷い降りであつたが、今日は又腦天も焦げる程の炎暑で全身まで水に浸つたやうである、餘り酷い暑さに誰れ一人として話をするものもない、丸で啞の出合見たやうである、一人ぬぎ二人ぬぎして、護衛兵を除けた外は皆丸裸になつた、唯歐心にズボン丈けは着けて居る、之れが京城とか其他の町であつたら此んな暑い事もなからうが、又裸等なるやうな事はあるまい、若しあつたらキ印だらうと思ふたコト後を見ると十七八の手拭冠つた韓人が口の内で何にか獨り言云つては、怒つたり笑つたりして居る、最初は妙な奴だと思つて居たが愈々近いて來るのを見ると、全くのキ印だ暑さに無言で居た連中はいゝ慰みものが來たと云はぬばかりにからかい始めた、最初の内は面白半分にからかつて居たが、何里でも付いて來るので今度は皆で追歸しにかゝつたが、蟷螂擬りなんかして却つて人を威嚇する、仕方がないので今度は手と足を縛つて木の下に置いたが、可愛そうだと云ふので解いてやつた、雖の二里も來たかと思ふ時に黒雲は俄かに天を蔽ひ風吹き荒み嵐かとも思はるゝ白雨は天の水溜の底拔けたやうに降つて來た、實に[illegible]四圍の光景は、恐ろしいといふより外はない、谷は水音高く雖は河と化し、今迄暑さに堪へなかつた我々は自ら身に栗立つを覺へた、漸くにして凄まじかつた雨も漸く小降りになつた、間もなく市のある邑へ出たので一行は邑端れの小屋に腰掛けて一息をついた、何んとなく此の村は嫌やな氣がすると思つて居ると憲兵が來て、韓人に暴徒は來て居ないかと問ふ、其の動作の何となく殺氣を含んで居るやうである、事に依ると暴徒が居るかも知れぬ、居るとしたらどうしやふ等考へる、護衛兵も四方に目を配つてサア行きませうと云ふ其所から、道の三丁も來た時兵は、今の村が暴徒の巣窟雙橋と云ふ處じやと云ふ、其れを聞いた時には身がゾッとした、僕等は鳥致院から清州に行く時雙橋と云ふ處は危險で村全部が暴徒と云ふてよい位ひの處で、屢々襲擊を受けた事や騎兵の殺された事を聞いて居た、然も其の村は暴徒に出て空屋ばかりと云つてよい程である、十丁も來た時に炭酸水が湧出して居ると云ふ見ると成程濁でも沸騰して居るやうに湧出して其の水は田の灌漑水になつて居る、之れを我利／＼先生に見せたらどうだらうと思つた、茲で渴して居た一行は慾で嫌やと云ふ程飲んだ、聞けば此所を通行する兵は唯一の樂園として居るそうな、

●民團歲出入決算說明

明治四十一年度京城居留民團歲入出決算說明概要左の如し

▲歲入　歲入の中居留民團税に於ては嚴に吏員を督し徵收に力め且滯税者を檢擧したる結果戸別税に於て五千三百八十餘圓土地税に於て二千六百六十餘圓營業税に於て三千二百餘圓合計一萬千二百七十餘圓の增收を得且特種税に於ても其の數種を除ては概して良好なる結果を示せり則ち雜種税中遊技場酌婦及仲居遊藝稼人遊藝師匠の類は朝に開業し夕に廢止するもの多く之を檢擧するも忽ち踪跡を失し遂に豫定の收入を得るに至らず荷積牛馬車荷車等の如きも嚴重之を檢擧したるに拘はらず是亦豫定の額に達せず其の他演劇興行及之に付隨する俳優相撲等は意外の少度數にして二種藝妓等も豫算編成當時に比し著しく減少したる等其の減少の主なるものなり而して又汚物掃除制は其の税額零碎にして而も月税なるを以て賦課及徵收の困難は實に名状すべからざるものあり然のみならず其の納税義務者中には殆んど一時の滯在に類する居留民多く其の所在を失ふもの相次ぎ爲に遂に五千四百餘圓の不足を見るに至れり然れども尚居留民團税全体に於ては豫算に比し千八百餘圓の增收を見たり使用料及手數料は專ろ豫算を超過するの傾向ありしも汚物掃除の手數料に於て依託者なかりし爲め千四百餘圓を減じ差引[illegible]六十餘圓の減額を來せり其の他財產より生ずる收入の千六百餘圓の增收ありしも雜收入中過年度收入に於て千餘圓及前年度繰越に於て二千九百餘圓の不足を生せり要するに汚物掃除制同手數料過年度收入及前年度繰越金等豫算に比し甚しき不足を見たるも[illegible]居留民團税及財產より生ずる收入等各種の增加に依り其の差額は僅かに二百四十餘圓に止るを得たり

▲歲出　歲出に於ける前年度に比し經費著しく增加せるを以て努めて緊縮を計り經常部に於て役所費に二千五百餘圓の殘額を示したるを始め[illegible]教育費衛生費其の他の各款を合せ九千八百圓に達する[illegible]臨時部の剰餘を合し遂に南大門學校用敷地建物購入費壹万五千圓は殆と他の賦課に依らずして豫算を更正し之を支辨することを得たるは喜ふへきことなりとす若し夫れ汚物掃除を民團事業と爲さゝりしに於ては一層の好果を見るへきは左に記する處の如し

汚物掃除制收入　八千七百九十一圓廿五錢
汚物掃除支出　一萬二千八百四十圓五十六錢
差額　四千四十九圓三十一錢

即此差額は汚物掃除の經過に於て全く損失に歸したるも尚且千四百餘圓を繰越すに至りたるは至幸なりと思料す

●任命

卅一日左の通り任命されたり

任御苑事務局事務囑託　下郡山誠一
任御苑事務局事務囑託　正三品　李格[illegible]
六品　姜[illegible]周
任內藏院事務囑託 帝室會計監査院監査官　俞致衡
任御苑事務局理事叙勅任官三等　赤松熊彦
內藏院理事　增田英信
任帝室會計監査院監査官叙奏任官四等 帝室財產整理局事務官　權藤四郎介
任內藏院理事叙奏任官三等　六品　劉[illegible]性
任御苑事務局部長叙奏任官三等
任御苑事務局部長叙奏任官四等 帝室會計監査院監査官　增田英信
兼任帝室會計監査院理事

（七）

川合柳葉

山川孤舟は、打續いた雨天のために險惡を極めた里路を、日頃から胸に企謀んだ非望を打明けたので、ビールの醉酊さに、得も云はれぬ愉快を覺ひて、傘を雙手に一步は高く一步は低く、跟々としてやゝ三十分の後宇治停車場に近いた時、消魂しい一聲の滊笛を餘波に下り列車は今停車場を離るゝ所であつた、思はず七八步馳出して見たが列車は早くも煤烟を虛空に流して瞬く間に數丁の前に進行したので、「吁々僅かの違ひで到頭乘遲れちやつた」と、忌々しげに呟いて、列車の先方を眺めつゝ路上に突立つた。「こんな事なら、猪目御室の家へ泊つて一番に乘つた方が餘程智慧だつた」と云つてわれ程親切に留て下れたを、強情に歸りかけて、今更滊車に乘遲れましたからと引返すも剛腹だ、エゝまゝよ此處まで踏出したからには、幸ひ雨も止むだし、川風に醉を醒しながら宇治川堤をブラ／＼と徒步つて歸るも面白かろう、然うだ、然うだ。」と、我に問ひ我に答へて着物の裾を端折つて、スタ／＼と步み始めたが、程なく宇治川堤に出たので、彼の雅數を喚かして御室侯爵家を横領せんとする惡計に就て、左や右と思案を廻らしつゝ步む中不斗行方に當つて幽かに人聲が聞こゆるので、ハテ不思議な事もあるものかな、かゝる深夜に同じ堤を行くは、我と同じく滊車に乘後れた人ではあるまいかと、眸を凝して眺めると、生憎月が雲に呑まれて定には見わぬが、どうやら男女の二人連れで此方に進むで來る樣子である、偖は夫婦連の旅人かさなくば安くない道行筋かなど思ひながら、尚も步み續けて居ると、件の男女は端と堤の眞中に立留つて動く樣子でない、山川はツイ好奇心に驅られて、唯ある道端の柳の蔭に身を忍ばせて、男女の擧動を眺めて居ると、兩人共兩の袂へ頻に小石を入れる樣子であるから、ハゝア偖は戀が任意ならんとか何とか云ふ所から、現世で添はれぬから冥府でと紋切形の情死だね、ヨシ／＼奈何云ふ愁嘆場を演ずるか、行る所まで行らせて置て、イザと云ふ所で救けてやろうと、尚も透して眺めて居ると、男は女を抱き締めて「お君、能く顏を見せて下れ、これが互に顏の見納めだ。」と云ふも涙の曇聲、女も男の顏を瞻仰げ、「長さん、私にも能く見せて下さいな。」と、寸時は抱合つたまゝ惚々と顏を見合つて居たが、「いつまで見ても餘波は盡きない、ヒョッと他人に目付かつて邪魔をされてはならぬから、一時も早く……。」男が促せば、女は涙の顫聲で、「長さん、必ず冥府に行つても見棄て下さんな、三途の川や死出の山とやらも、どうぞ手を取合ふて越して下さい、これが臨終のお願ひでございます。」「何の見棄て宜いものか、必ず心配しないが宜い。」と、泣く／＼手を取り合ふて滔々と物凄じい響を傳へて流れつゝある、宇治川の岸を降つた。

廣告

京城新聞

博覽會の延期

日本大博覽會延期說に就ては種々說をなして曰く、之れ桂內閣が金子會長を排斥せんが爲なり、曰く大浦農相が博覽會嫌ひなるが爲なり杯と揣摩臆測すれども、既に列國に迄賛同を求めたるものを一金子を排する爲め若しくは一大浦が不服の爲に延期するに非ざるや無論なり、延期の要は僅々一千萬圓にて困患なる設計をなさんより寧ろ延期して財政の整理を俟て完分なる設備をなすに若かず、徒に急ぎて信を列國に失せんより徐ろに完備を期するを可とすと云ふにあるが如し、而して此延期に就ては種々なる論議あり、延期非延期共に相當の理論あり、非延期論者は曰く、既に列國に通牒したるものを今更に延期するが如きは失體も甚だし列國は必ずや此一事を以て日本財政窮迫の一端をトすべし、若し夫れ一千万圓にして不足ならば、更に二千万圓三千萬圓に增加するも可なり、財政如何に窮乏すれば迚日本帝國の財力之を差繰るの餘地なからんや、殊更に弱點を列國に披露するの要あらんやと、延期論者は曰く、五千萬圓の軍費繰延すら財政整理の難問題なるにあらずや、假令一千万圓たりとも此中より控除することは容易ならず、不急の問題の爲に財政整理を犧牲にして迄之を敢行するの要なし、殊に四十五年には歐羅巴にも四ケ所、米國にも小規模の博覽會二三の開催あれば日本の延期は列國の爲に都合よかるべし云々と、果して何れが理論の當を得たるものなりや、余輩の望む所は此際に於ては名目よりも何れが帝國の利益なるやを研究するにあり、抑も博覽會なるものは全く利益ある事業なるべき乎、巨額の資を投する割合に利益を得べきものなる乎、佛國の如き外國人を集めて金を絞るべき國柄に於ては或は利益あるべし、米國の如き產業の發達著しく其富の餘力を以て大博覽會を開設して列國に廣告するも或は可なりと雖も堅實なる產業の發展を期するに於ては其效力及利益は決して著しきものにあらず、此點より考れば現時の如き財政窮迫の場合に非常の遣繰算段を以て敢行すべきものにあらず、財政の順境を俟て大なる設備をなし、列國に對して信を增すと共に我產業の發展に幾分の効力あらしむるの計を建てざる可らず、今上即位五十年の祝典を期として之を開催するは最も當を得たるものなるべし、

日本大博覽會を延期すると共に、韓國に開催せらるべき博覽會も延期するの至當なるを思ふ、日本の窮迫せる財政の中より無利息を以て貸與せらるゝ政費を割きて此等不急の事業費に投するは不可なり、韓國の產業や興すべき者多く、常に資力の缺乏を感じつゝある際に、博覽會の如き產業の發達に効力薄きものに投ずるは不可なり、韓國今日の現狀は各種の產業をして堅實に發達せしむべきの秋なり、祭禮然たる博覽會の如きは決して焦眉の急にあらざるなり、寧ろ今暫らく產業の發展を俟て開催するの利あるべきなり、敢て當局者の一考を煩はさんとす、

保險率引下げ

方外なる高率を課し在韓邦人を苦しめ函館の警を京城其他に於て打たんと試みたる明治其他の火災保險會社は今回保險料率を引下げたり、而して其茲に到りたる源因が外國火災保險の競爭にありと云ふに至つては余輩は明治以下の火災保險業者の心事の陋なるを思ひ其顏に唾せんとするものなり。

郵務の欠點

余輩曾て池田通信管理局長より韓國通信郵務の[illegible]を聞き[illegible]其の施設せんとするところを[illegible]感謝の念を禁する能わざりき、而れども如何に苦心のあるところを知ればとて余輩の知れる欠點を擧げざるを得ず、郵務の欠點とは何、曰く郵書配達の粗漏なる事之なり、蓋し當局者にして實例を擧げて訴よと云はゞ余輩は即座に其二十三十を示し得べし、敢て其筋の一顧を煩す。

彩票公許か

大連、湖南、安徽の彩票支那人の手に依つて公然發賣さる、買ふ者に邦人あり韓人あり而かも韓國警察は知らざるものゝ如し、否知らざるに非ずして治外法權の爲に如何ともする能はざるなるべし、思ひ見よ、幾萬の資金は每月彩票と化して支那に輸送せらる、之を防止するに二途あり、曰く警察の干涉、曰く彩票の公許、余輩は政府當局が二者其一を撰んで實行せられんことを望んで止まず。

東京電報

▲韓太子參內

韓國皇太子には本日伊藤大師同伴參內陛下に御對顏御物語ありたり

▲駐英大使親任式

加藤高明氏の英國大使親任式は三日を以て擧行の筈なり（以上一日發）

▲大博遂に延期

大博覽會開會期明治四十五年を同五十年に延期の件公布せらる

▲井上侯危篤

興津に靜養中の井上侯昨今重躰に陷り今日醫師多數同地に向ふ伊藤統監も急行せり

▲金中樞議長出發

韓國中樞院議長金允植氏は今朝八時新橋出發歸國の途に就けり

▲京大總長新任

京都大學總長岡田良平氏は依願免官となり菊池大麓氏後任となり特に親任官待遇を命せられたり（以上二日發）

雜報

●暴徒綏撫の詔勅

韓皇帝には昨夏暴徒蜂起以來之れが綏撫の爲め前後二回の詔勅を發せられしも既に年餘の今日に至るまで鎭定を見ず依然騷擾を極めつゝあるを慨せられ去月三十一日更に來る十月三十一日迄限內に前非を悔ひ歸順を申出る者に對しては罪を加へざるを以て此旨地方官憲に諭達すべしとの詔勅發せられたり

●駐韓軍交代順次

韓國暴徒の現狀を聞くに各方面共に守備隊及び憲兵巡查の配置益々整頓し討伐捜索は着々密度を加へたれば今は僅かに李範允の徒黨が北韓方面に出沒すると交通不便人員稀少なる地方に强盜類似の草賊蠢動するのみにて殆ど暴徒らしき徒團を認めず、新設韓國補助憲兵隊は既に教習を了へたる者約二千五百に近く且本年は豐作の見込にて平年の五割增若くは二倍增と稱せらるゝを以て暴徒の鎭靜に歸するは今秋を出でざるべし從つて第十三師團は豫定の如く來十月上旬第六師團と交代歸還すべし他の小倉步兵旅團の四箇中隊、旭川步兵第十二旅團、騎兵十三師團と相前後すべきも一時に引揚げては折角順潮に向へる民心を動搖せしむる虞あり機を見て順次歸還せしむる筈なりと

●軍司令部移轉と統監邸

現在の軍司令部が龍山に移轉するを待ち其跡に統監邸を移し六十万圓の巨額を投じて之れが改造をなす豫定なるも統監府四十二年度豫算中或は三十萬圓位に減せらるゝならんと副統監は語れりと

●監督局經理課長會議

度支部に於ては去る八月廿五日より各財務監督局經理課長を召集し經理事務に關する事項にして取扱の一定及改正を要するもの數十件を注意及諮問し尙各局より提出したる問題につき審議し次官及司稅局長よりも訓示演說あり同三十一日閉會せり本會議の結果各監督局の取扱にして從來區々に涉りたるもの一定となり又は改良せらるべきものも尠なからず頗る有益の會合なりしと

●內部土木技師會議

內部にては沿道其他の視察にて出張中なる土木技師を召集し本月十日土木技師會議を開き土木工事上に就て打合せをなすと云ふ

●地方警察署長會議

各道警察部長會議を了へて歸任したる上は各地方共警察署長會議を開催すべしとの事は既報の如くなるが爾來今日迄其の會議を終了したる地方は左の如し

八月	廿四日より	平安南道
同	廿七日より	平安北道
同	廿一日より	京畿道
同	廿四日より	忠淸北道
同	廿五日より	忠淸南道
同	廿五日より	全羅北道

●松井局長の視察談（續）

又此の地方の宗教家殊にクリスト敎を奉ずる韓人中には往々にして宗教の本旨を誤解し濫りに排日思想を鼓吹するものあり甚しきは日本人より貨物を購入すべからずと說き又は日語を講習すべからずと述べ尙甚しきは宗教學校の生徒にして隊伍を成しラッパを吹き太鼓を打ち鳴らして練り行ける者が日本人の前にては特に其の吹奏を烈しくして恰も示威的運動をなせるが如き何又甚しきは土地の有力者日本人の在る所に來りて貴公等此の地に在留するため暴徒の害あり速かに引揚ぐ可しと迫る者あるが如き殆んど常規を逸して其の行動の不穩なるもの枚擧に遑あらざるの狀態なり此れ畢竟宗敎と政治を混同するの弊に基くものなれば自分は此れに關し單にクリスト敎に限らず佛敎其の他の宗敎は何れも社會の風敎を維持し國民の道義心を涵養するに必要にして此れを信仰するは各人の自由たるべし又政治も國民として其の研究を怠らざるは敢て不可なし然れども政治家の宗敎を利用し宗敎家が政治に關係して此れを混同するは因て生ずる弊害頗る多大にして世界各國も此れがために崇りたる慘禍は歷史上其の例乏しからざるを說き以て充分に注意を與へ置きたり黃海道の人民は由來性質悍獰にして其の人氣粗暴なりとの評ありしも自分の見たる處にては人の噂するが如く甚しきものありとは認めざりき排日思想の最も盛んなりと稱せらるゝ安岳にて人民を集め日本が韓國に對して如何なる政策を執りつゝありや又日本の上下が如何に韓國の啓發に力を用ひつゝありやを說き折柄携へ居たる日本の新聞紙記事中の韓國皇太子殿下の關西地方巡遊に對し日本の地方民が如何に誠意を以て此れを歡迎し又陪從の伊藤大師が如何に熱心に殿下の御見學を導きつゝあるかを讀み聞かせたる際の如き群衆中感涙を流したるものあり又人民の頑冥不靈にして度し難しとの聞へありし長連にても觀察を了へ談話會を催して歸途に就きたる際多數の人民は面外迄一行を見送りたる程にて度し難きの民に非ざる可きを感じたり然れども此の地方は暴徒の最も甚しかりし地方にして此れを刑事統計に徵するも他地方に比すれば殺人强盜の多きは事實なり殊に日韓兩國の關係に付ては一般に誤解せるものの多きが如し乍併自分の見た所を以てすれば觀察使以下地方官吏が常に努めて官民意思の疏通を圖り其の誤解を正せば必ずや歷間は釋然として解けるべしと信ず即ち其の方法の如何によりてはよく此れを馴致して善良に導くを得べし（未完）

●仁川委員の上京

仁川の民長問題に關する仁川の副統監面接委員五名は既記の如く昨日午前十時仁川發の列車にて入京し午後より曾禰副統監を自邸に訪問し民長官撰問題に關し副統監の意向を聽き委員の意見を陳べ同夜歸仁したる筈なり

●仁川有志會の決議

既記の如く一昨日仁川俱樂部に於て開會したる民長問題に對する有志會は飽迄反對すると云ふ說多かりしも愼重の態に出で最後の勝利を得るを期することに決したりと云ふ

●協會學校卒業生の任官

東洋協會專門學校京城分校の本年卒業生卅八名中五名は內部へ五名は農商工部へ廿四名は度支部へ一名は學部へ三名は第一銀行に奉職することゝなりし事は曩に報導したる所なるが爾來何れも未だ任命を發表せられざりしが內部は今回左の五氏を郡主事として任命せり此の諸氏は當分同部地方局に於て事務を修練したる上にて任地を定めらるべしと云ふ

粟　正治　內藤　寬[illegible]　大村　綱[illegible]
水野精二郎　足立　俊夫

●京城の拓殖創立委員

京城より撰任せらるべき東洋拓殖會社創立委員七名に對し希望者二十餘名ありて互に撰任を競爭せしため當局者も此れが人撰に困難せる模樣なりしが右は愈々李根培、白完爀、趙鎭泰、韓相龍外三名に決定したるが李根培氏同會社副總裁に內定し居れりと

●東洋拓殖地方委員

既報の外各道より人撰せらるゝ東洋拓殖株式會社創立委員の決定したるもの左の如し

咸鏡南道　朴照豐　都近浩
全羅北道　白南信　尹祐炳

●東拓委員の出發

東洋拓殖株式會社韓國側委員は略ぼ人選を了したるが本月十日頃川上農商工部書記官及び今回軍司令部より內部事務官に轉任すべき立花屋介氏等通譯として付添ひ一同東京に向け出發する筈なりと云ふ

●同仁會の發展

同仁會の滿韓經營は年と共に著しく發達しつゝあるが本年は日本常務理事山田烈盛氏は兩三日前渡韓され本日及び四日の兩日十數名の鐵道囑託醫を召集し南大門鐵道管理局に於て鐵道衞生會議を開催する由にて目下在韓の同會副會頭佐藤進男も臨席され一場の訓示をなす筈也と

●記者俱樂部設置

在京各新聞記者及び通信員諸氏は今回記者俱樂部を創立することに決し來る六日商業會議所樓上に於て創立會を開く筈なり

●大邱日々新聞

同新聞は從來の關係を以て村松祐之氏經營の衝に當らるゝこととなりたる由なり

●大內代議士の入京

憲政本黨韓國政務調查委員たる衆議院議員大內暢三氏は既記の如く一昨日着京せられ浦尾旅館に投宿中なり尙同代議士は暫らく滯京の上民長官撰問題に就き調査を遂る筈なりと云ふ

●堀警視の歸京

松井警務局長と共に黃海道地方視察のため出張中なりし堀內部警視は平壤にて同局長に別れ義州地方に赴きたるが其の視察を了し昨夜南大門着歸京せり

公人私人

▲恒吉忠道（陸軍少將大邱駐剳旅團長）は入京中の處一昨日歸任
▲眞家六颿（元山財務監督局經理課長）一昨日任地へ向け出發
▲向井延太郎（鐵道技師）一昨日出發
▲大內暢三（福岡縣撰出代議士）一昨日入京浦尾旅館
▲落合芳颿（馬政局書記官）一昨日着京天眞樓投宿

●土地交換問題再開

仁川佛敎會堂下士地交換問題は其後同敎會大僧正歸省なりしを以て其儘となり來りたるが來月中には歸任の豫定なれば何れ其歸任を待つて直ちに再交涉を開始するに至るべしとなり

●錦山の幻燈會

全北道錦山警察署にては地方民の公德衞生思想等涵養の目的にて時々幻燈會を開催する事とし過日邑內客舍にて其の第一回を開催せしに人民の來會する者六百餘名に達し極めて靜肅に耳を傾け頗る感動を與へたるものゝ如く成蹟良好なりしと云ふ

●副統監の宿所

五日下仁の副統監は當日秋田穀方に一泊する豫定なりといふ

●仁川理事官々舍竣工

仁川理事官々舍は來月十五日迄に竣工する豫定なりといふ

●本鄕少將の歸朝

韓國派遣を命ぜられ滯韓中なりし陸軍省人事局長本鄕少將及藤井副官は一昨日出發歸朝の途に就けり

●中島司馬之助氏

同氏は內地より歸來微恙に罹り目下引籠中なり

●道家鈴木兩技師の歸京

安東縣なる營林廠と事務打合せに兼ねて新義州及平壤の苗圃模範場等視察のため出張中なりし道家農商工部技師は一昨夜南大門着列車にて鈴木技師と共に歸京せり

●小川事務官の出張

小川農商工部事務官は京義鐵道沿線の商工視察のため出張を命ぜられ昨日朝南大門發列車にて出發せり

●鐵道管理局囑託醫の更迭

同局にては病院所在地を除く各地方囑託醫の更迭を行ひたり即ち兼二浦を京城西大門に、大田を草梁に、永登浦を兼二浦に、而して近藤京城西大門は大田に何れも轉任することゝなりたれば此所兩三日中に其來往を見べしと

●近事片々

▲辭職　は確定せられし如く噂ありし曾禰[illegible]亦伊藤公に隨伴して來るとの說あり[illegible]
▲鶴原　君の來るは統監府に於ける形勢[illegible]變せる爲なりと形勢一變とは何を意味する乎
▲[illegible]あり伊公若返り[illegible]白山[illegible]の覺悟にて乘込み來るべし是即ち形勢一變
▲說者　更に曰く韓國には山縣系に一指だも染へざらしむるの覺悟あり果して然る乎
▲伊公　が斯く臍を堅めたるは山縣系の[illegible]祭り込に反撥したる爲なりと[illegible]
▲山伊　兩系の爭ひが韓國に迄及ぼし來るが如きは決して讃めた談に非ず大人氣なし
▲說者　亦曰く形勢斯の如し曾禰子今度の進退は甚だ疑問なり恐らく一悶着あらん歟
▲曾禰　子は去て大藏大臣たるべしと又しても曾禰子の藏相說乎最早耳タコでム[illegible]
▲併し　此老胸中莫是非不耻甘受不材[illegible]著實驗三年後談笑古今醉夕陽の詩[illegible]
▲此詩　之によりて考れば伊公の若返りも[illegible]說耳に止る乎玉手箱は近日の中に開かれん
▲曾禰　子近頃大分俗氣を帶び來る三年後を見よの御詫宣は却て人格を小ならしむ也
▲何時　も詩は要領を得過るの感あり要領を得過る處に俗氣漫々たり好漢却て可惜也
▲私淑　せらるゝ故從雖候は斯る言ひ譯の詩なさはぬたくらぬ[illegible]は世俗に超然たれ
▲拓殖　會社役員の推選に就き完用君と秉畯君と爭ひを始めたりとの說は果して眞乎
▲互に　好む所の人物を推撰し兩々相下らず爲に未だ決定せざるとは例の風說なる乎
▲斯く　して副總裁以下の役員決定せず伊藤公歸任せざれば確定甚だ困難なりと云ふ
▲此等　の說果して事實なれば咄々怪事也曾禰子にては兩人の裁斷をなす能はざる乎
▲李宋　の軋轢は屢々聞く處なるが斯る事迄互に確執して政務を澁滯せしむ不都合也
▲伊公　歸任せざれば兩人の調和六ツケ敷とは解せぬ話だ或はと思ふ節もあるなり
▲涼氣　催し來り又宴會のシーズンとなる諸も紳士貴女連が每忙の時は來れる乎穴賢
▲四日　は完用君の慶會樓宴會六日は李夏榮の龍山に於ける宴會日本側も弗々始らん
▲佛領　印度行政は佛國政府直轄行政となすべく今や研究中也と之れ保護政策の伸張
▲二百　十日も先づ〳〵無事に經過せり日本も韓國も今年は豐年じや万作じや可祝也

●朝市商人の昨今

記者昨朝南大門朝市の景氣を探るべくいつにもなく早起し各商人につき片ッ端から聞き得たる談話を參考迄に申し述ぶべし

▲韓人雜貨商　ドウもはや近頃の不景氣といつたら李れ話の外です、尤も手前共の商賣は忙しい中に所で高が知れて居りますがソレでも此んな不景氣はマッ四五年此の方ありません昨年の今頃迄は午前丈で四圓から四圓五十錢位の商いはありましたが今年の一月からといふものは綺麗切りまして丁度半分許りになりました左樣御谷に八ケ支那品物は金巾、紙、ナイフ位の所ですが此等の品物は金高が上りませんから更に儲けがありません此れもツマリ生意氣な言葉なやうですが暴徒の爲めに穀物やら金巾やら又其他の品物が動きませんから夫れで金の流通が惡い爲めでせう、併し今年は豐作ですから此の秋にもなりましたならば些は景氣附くでせうと云々

▲牛肉商　手前共の商賣は別に不景氣といふまではありませんが唯昨今地方の生牛に少しく牛疫が流行致して居りますのと近頃餘りに外國へ輸出さるゝものですからソレや此れや地方の市場の方に不足を告げて居る所から商が仕にくゝソレかといつて値段を急に高くするといふのも他の同業者の競爭上出來ず從つて我々薄資本の者は實際辛いのですナニ得意ですか夫れは一般の韓人や客樣方が相手ですが併し此の頃では小料理屋ソレから韓人の卸し商などが第一の上得意です

▲韓人菓子商　日露戰爭時分には大分此の御覽の通りの菓子が歡迎されましたが近頃ではドウも一般に賣れませんナ總体此の韓人は形が小さくつて味の良いのよりも味は惡くとも形の大いのを好むやうですソレから又其の菓子の上側へ赤や青や黃やいろ〳〵の色を着けましたのを歡迎しますが近頃はダン〳〵日本化して贅澤となつて來ましたもので見形よりも色の奇麗なのよりも味の良いのを好むやうになつて來たやうです位段の點です……左樣マッ韓貨の一錢ツマリ日貨の五厘位の所が一番ハケます、昨今の賣上高は平均三圓毫ですがトテも遣り切れたものではありません

▲魚商　此方とらの商賣は生物商賣だから一概にやれ行きませんやねツマリ腕一ッでさあ、だが近頃見て化に斯う不猟ちやわね賣際遣り切れたもんぢやありませんナニヨボの客ですかマッ一人も無いといつて宜い位で何分此方とらア小商人ですからヤッと其の日の米代を儲けるのが精々でさア

●武夫の涙
父の罪業から罪なき妻を離緣す

先般彼の舞鶴軍港の秘密地圖をば露國公使に賣り込まんとして端なくも發覺し逮捕されたる賣國奴石山愼一郞の同類技手梅谷國松の娘谷子の身の上こそ哀れにも亦氣の毒な婦人も尠少かるべし同婦人は韓國某守備隊附門馬大尉の夫人として從來よく夫を助け家を治め夫婦の間も至つて仲睦ましかりしが一旦父が賣國奴の汚名を受けてからは谷子の憂愁は勿論大尉の苦痛は一方ならず大尉は時に天を仰いでは『吁々我が舅は如何なればこそ汚はしき黃金の光りに目が眩みて斯くもうたてき振舞をなすものかな國松一人が心の曲りたる爲娘谷子に迄難儀を及ぼす[illegible]に泥を塗らんとは』と幾度か涙の聲を發することもありしが頓て國松等公判の次第書の概要ある知人の手より大尉の許に達するや大尉は更に胸塞がり五千萬國民の怨恨の的となりたる我妻の父今重罪公判中にて所詮恥曬らし我妻たに子に對する愛情は毫も變りなく否なたに子が父の罪惡と共に世に疎まれるを思はゞ夫たりし我のたに子に對する同情の涙は禁じ難く谷子を憐むの情や切なりとは云へ併し現在の我が肩書に對し又世間に對して斯くあるべきに非ずさなり谷子よ――許せ我が妻――我は涙を呑んで御身を離別せん吁此れも前世の惡緣かと心に期し万斛の涙を胸に湛へつゝ傍なる手箱より電報用紙を取り出し妻に宛て「其の許斷然離緣す」との電報を發したり無心の電信は瞬間にして國元なる谷子の許に達したりしが谷子は此の情なき電報を披き見るや否や氣も顚倒せん許りに打ち驚き「エ、父上樣は怨めしい……」とワッと其の場に泣き伏したりとは夫婦の人情としてさもあるべく谷子の身こそ氣の毒とも可憐ともいふべけれ

●各地の暴風雨被害

去月廿六日の暴風雨は全國各地共多少の被害ありし事は當時の地方電報に見へたるが其の後の調査にて損害の明かなるもの左の如し

▲馬山　暴風のため屋根を剝ぎ取られたる家七十九戶激浪のため船舶の覆沒したるもの八隻內三隻は破損し二隻は全く破碎さる尚農作物にも被害あり

▲釜山　浸水家屋九十戶にして內避難したるもの二十五戶船舶の破損二隻の其の損害額七百圓棧橋船一隻破損其の損害額五十圓道路の破損二ヶ所家屋の顚覆一棟にして其の損害額八百圓なり

▲璟興　浸水家屋三十五戶にして損害額二百三十圓同田畑約一町步にして此の損害百圓なり

▲鐵道　洛東江增水のため沿岸の鐵道浸水し廿八日に至り漸くトロッコを運轉して交通せり

●橋梁の修補　前日の豪雨にて漢江一帶に多大の損害を蒙むりたるが其內豆毛浦の橋梁一個所は一昨日同所駐在日本騎兵にて修補されたり

●清城鎭狀況　平安北道清城鎭は三方山脈を以て圍繞し北方は鴨綠江に沿ひ清國に對する部落は山間僻地なりと雖も對岸清國より往復あるを以て不逞の徒少からず又暴徒は附近九里以內に來襲したるを聞かず而して物資の供給及物價は山間僻地にして些の物產なく米穀の如き水田僅少にして村の食料にも足らず對岸長甸河口及び義州朔州より供給を受けつゝあるも一般に高價にして木炭一貫十一錢石油一罐二圓三十錢米一斗二圓十錢石灰四圓大豆一斗六十錢人夫四十錢馬一里に付二十五錢而して長甸河口は約百戶の村落にして清人のみ居住し稅關警務局稅務局の官衙あり警務局にては目下韓國軍銃を使用し日本に留學せし清人一名敎官となり巡檢二十五名に對し日本式練兵を教育しつゝありと

●宣川學生の亂暴　去月二十七日皇帝即位紀念當日平安南道宣川郡は一般に業を休み祝意を表し同地の私立測量學校內に於て韓國官民合同祝賀會を催し日本人三名をも招待して祝盃を擧げ各學校生徒は隊列を整へ喇叭を吹きて市街を練り步き終りて測量學校に集合し萬歲を唱へて解散するに際し學生等は韓帝の即位紀念日に日本人を招待するのみならず妓生を招くは我國体及び學校の体面を汚すものなりとて日本人歸りたる後數百名の學生等は官民の重立たるもの三名を毆打し又は投石するなどの亂暴をなせしかば憲兵は此報に依り直ちに現場に出張したるが此時は旣に學生等は解散して其姿を隱せし後なりしと韓巡查は之れが嫌疑者として二名を引致し目下取調中なりと因みに宣川の學生は十中八九は基督教信者にして平素排日思想を有し居るを以て日本人を招待したる結果茲に至りたるものならんと

●韓兵の實彈射擊　奬忠壇附近に韓國近衞隊の射的場を設置せしことは旣記の如くにて一昨日其落成式を擧げ同日より昨日まで實彈射擊を行ひたりしが未だ實彈射擊に熟練せざる韓兵等が射擊するに當り彈丸高く飛行するなど其危險云はん方なかりしも萬一を慮り附近の洗濯女などに對し嚴重に警戒せし爲め幸ひに負傷者などは出ざりし

●保定號の患者は疑似　三十一日仁川に入港したる清國汽船保定號に發生せし患者は眞正コレラなるべしとの說ありしが今日內部衛生局より奧貫技師同地に出張し檢鏡をなしたる結果疑似コレラなる事を確めたりと云ふ

●官名詐稱の不埒漢　近頃度支部量地課員なりと稱し諸所を徘徊する者ある由なるが度支部にては現在量地課なるものなければ惡漢が何等か爲めにする爲め斯く官名を詐稱するものなるべきを以て此等の奸手段に罹らぬ樣注意すべきなり因みに度支部臨時財產整理局內に測量課なるものあるも此係員には凡て其票を所持せしめ居れりと

●白蓮花の正態　改心せしものは責めず改心せざる者は飽くまでも其の非を改めざる可からず而して之を改心せしむる方法に二途あり一は其非を許かず溫和的に說きて改心せしむるにあり一は其の非を許きて膺懲的に改心せしむるにあり而して記者は先づ第一の方法を以て彼女の墮落を救はんことを計りたり然るに其の後彼に彼の行動を窺ひ居たるに未だ改心の狀あるなく却て忌はしき行動の止まざるはサテも手の着け難き代物かな今左に最近に來れる投書のまゝを掲げんに曾野ハル子は頃日廣橋北川邊の同德義塾には居らぬ樣子そは如何にと內々探りを入れて見たるに同德義塾の塾長の息子に本年三十三才になる日本語のチト明るき男ありけるがこの奴中々の好色家にてハル子が粉裝せる洋裝に野心を起し自然主義を實行せんとして出齒りたること既に四回に及べる由なるがこれが原因で今日では義塾の敎をも執らぬとの物語りなるにぞ將してこれに違ひはないかとまだ深く探りの手を奧深く突込みて取調べ見たるにハル子には一人の胡麻擂旦那あり姓は李といふて財產もあり又地位もあるものなるが此奴ハル子にスッカリ參つて了ひハル子でなければ夜も日も明けぬといふ逆上せ方なるよりハル子は占めたと計りに獨り合點し旦那を大事になし居りしが近頃聞けばハル子は近日中に義塾の家を引拂つて何れへか影を匿す魂膽なりとかいふ又た前記義塾の息子はハル子の後任として早速日本語の敎授をなしつゝあるよしなるが斯んな不埒な出齒り家に預けられたる韓兒童こそ宜い顏の皮也

アサヒビール

●酌婦落籍　福岡縣生れの滿田シメ(二十)は去る六月下旬洪州の某料理店に前借七十圓にて酌婦に住み込みて働く中主人よりは客を取れと迫られしこと度々にて嫌や〳〵ながらに勸め居るものゝ折さへあつたら足抜きせんと折を窺ひつゝありしが何時しか好きな男も出來たれば此男と相談して八月の末手に手を取りて洪州を駈落し二三日前當地へ來り立器舍といふ口入屋にコロゲ込み目下住込口を搜し居れりと

●ヨボ帽子を盜まる　西部南大門倉洞十二統一戶李泰雲なる韓人は一昨日本町一丁目五十四番戶理髮店渡邊代吉方にて理髮中帽子を盜まれアイゴーといひながら南部警察署へ訴出づ

●膓窒扶斯　京城永樂町三丁目三十八番戶大熊猪太郎は一日膓窒扶斯に罹り青坡病院に入る

●原金旅館の改築　南山町四丁目旅館原金支店は今回營業主の異動ありて更に原金旅館と改稱し万事に改善を加へ旅客の便利を圖ることゝしたり

●東雲樓の開業　本日より本町八丁目に東雲樓と稱する料理屋を開業したり器具其他調理等に意を用ひ來客の取扱等最も叮嚀にするといへば食道樂家は永當〳〵御入來あれと提灯を持つことかくの如し

●夜中の本町　流石人通りの多き本町筋も草木も眠る丑滿時は寂然としたもの滿街恰かも片唾を呑んだやう、唯軒頭の燈火がさも眠さうに光を大地に投げて居るのと遠くの方で微かに犬の泣き聲が聞ふるのみである丁度記者が本町一丁目の理事廳の前へ來掛ると何所かの時計がチン〳〵と二時を打つたスルと又何所かで嬰兒の泣き聲がしたソレより一直線に郵便局の前迄行くと長谷川町に出る通りから大分斯う酒に醉ッ拂らつて居るらしい二十三四の書生体の男が獨で何か呟きながら足許もシドロにとヨロ〳〵とやつて來たが記者の顏をイヤにキョロ〳〵と見ながら旭町二丁目の方へ行つて了つた多分此奴淫賣買の歸りであろう頓で知らずに步を運んで居る中にいつの間にか新井藥房の前迄來たが別に珍らしい出來事も無いのでイッツの事踵を回へして歸途に就かうかと思つて居る矢先向ふから雪駄を穿いた髯を生やした男がやつて來た記者は自分も其の類であらうと思はるゝをも打ち忘れ今時分物騷な野郎だなと擦れ違ふ途端に其の男の顏を橫目で見ると何うやら斯う見覺ゑのある顏らしいので〇〇君ではないかと言葉を掛けると先方でも感付いたものゝ見ゑてウン僕だソレにしても君は此の夜中に何をブラついて居るのかと聞くから記者は君こそ何の爲めかと聞ふと先方は俄かに當惑したらしくイヤ何君の前だが實は其の浩然の氣を……といふやうな寸法からツと昨夜泊つたやうな譯合でとさも言ひにくさうに白狀した呑氣な奴もあるものだと記者は夫れより本町六丁目迄行くとある角店の雜貨屋らしい家で何んだか斯う夫婦喧嘩をして居るやうであるからソッと身体を戶に寄せて竊み聞きして居ると何でも近頃亭主が博賭に負けて大分に女房の衣類を無くしソレに今夜も今時分迄何處かで賭つて來て褌迄も取られて了つたといふ体情落さ加減を女房が悔んで居るらしかつた折柄其の家の時計がブン〳〵と三時を打つたので亭主の聲としてもう三時だ宜い加減にして文句を止めろといつたので記者も宜い加減に切り上げて家に歸つたのが丁度三時半頃であつた。

●天氣豫報（自二日午後六時 至三日午後六時）
東の風晴後曇
二日午前六時各地氣象概況
北又は東の風吹き南部及中部は晴天なれども北部は概ね曇天にして龍岩浦に降雨せり

講談 富本半平の身上（六）

ホッと胸を撫で下して雨を軒傳によけながら片市さんの出して居た小倉屋といふ待合に飛び込み今晩はどいふが早いかトン〳〵と二階に驅け上り小冬は無論聘けるとした所で斯樣な家では始めての御見どいふのだから御だか極りが小ッ恥かしい樣な氣がしてならない其處で何かの寸法を運ばせ樣といふ下心から日頃近しくして居る此土地の新聞文中どいふのを取り敢へず呼ぶ事にしましたが此の文中では腹を抱ねる樣な話しがムいます

胸に一物ある手前でムいますから普通ど變つてソハ〳〵と致して居りまず小倉屋でも何だか變に思つて居た樣でしたが其中に呼びにやつた文中が參りまして馬鹿丁寧に襖を明けへイ如何も今晩は有り難うムいますと一禮をして膝スリで座敷に這入りながら是れ此樣は何方といふ氣味で目を配ると見知り越しの手前が床の間を後に座を構ねてるばかり他には座布團も見ねず人の居る樣子も無いので彼男妙な顏をしながら首を伸べてオイ半平に暫てついふなあれ前かいと聞くウンそう久し振りだから一杯やらうと思つて夫れで來て貰つた樣な譯なんだが……ヲイ何もそう窮屈にして居ないでサア此方へ來てゆつくりやるが宜いどいふと文中めそうか……ウムそうか……と言ひながら着て來た羽織の袖をツマンでは頻りと何か考へて居るのでヲイ文中何をそんなに鬪いで居るのだ羽織でも取つてサア〳〵此方へ御來を据ねたり〳〵と元氣をつけても矢ッ張り羽織の袖をツマンだなりでショゲ返つて居るのですヲイ如何したんだナ……先程から頻りと羽織を氣にして居る樣子だが羽織でも如何かしたのかよど此方も何だか少し氣になつて來るとヤッと膝を乘り出した文中お前だから打ち明けちもうが實は先程此家から口が聘つて來たので此りやアテッキリお染馴の御客樣に違ひ無いと御祝儀を見當に羽織を算段して引ッ張つて來て見るどお前ちやア無いか……實のところ落膽したネ歸つて差詰羽織の利あげに困つちもうといつて又縮ぎ込みますからソウか夫れで鬪いで居たのかケチな野郎だナそんなてざ位俺が拂つてやらうぢやないかマア安心して飲むが宜いど手前も懷中に多少の金を所持して居りますのでウンと大きく出るとそうして與れりやア心配も糸瓜もありやアしないぢやア度胸を据ねてアヲリ始め樣かと羽織をぬいで文中め大胡座になりました只今では邊富の樣なれ話でムいますが實際其頃の新聞は皆な斯樣工合で先づ貧乏が通り者になつて居たのです、今いつた通りの譯なんだからお前の顏であの小冬を甘く取り持つて與れ其かはりお前を只は置かない馴染があるなら夫れも一所に聘んでやらうぢやないかと切り出しました

電話七九番 東京
高等洋服裁縫
西岡支店 京城長谷川町一丁目
西岡本店 東京日本橋區通二丁目十二番地 電話本局二六八九

▲本店の特色▼
材料の精選なること
裁縫の叮嚀なること
直段の低廉なること
期日の確實なること
弊店開業以來各位の御引立に預り日に月に繁榮に趣き候段奉深謝候就ては弊店の勉强は他店に比し**直段調製の如何程**相違あるかを**御注意**あらん事を奉願候　敬具
京城長谷川町壹丁目皇壇南横門前
日韓洋服店

營業科目
活版活字鑄造　石版銅版　木版彫刻　コロタイプ版　寫眞版　罫線製　製本裝釘
今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト**改稱**致シ京城ノ成ニ新築落成仕候間倍舊ノ御愛顧之程奉願上候也
日韓印刷株式會社
本社 京城明治町三丁目 電話（三二三番）
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋（三九六二番）

肅啓向秋清凉の候各位愈々御清適の段恭悅至極に奉存候陳者拙者儀今回原金支店の業務一切を讓り受け原金旅館こ改稱致し器具其他の設備を改善仕り一層叮嚀懇切こ營業を繼續仕候間何卒前同樣御愛顧の程伏て御願申上候先は御挨拶迄如斯に御座候　謹言
原金旅館主 **野村吉三郎**

京城 **原金旅館**
南山町四丁目
長距離電話一〇七番

謹啓時下殘暑之候に御座候處御華客樣益御清穆に渉らせられ候段奉欣賀候降而拙者儀開業以來一方ならず御引立を蒙り日增し繁榮に趣き候段奉深謝候就而は今般都合に依り前揭之通業務一切を野村吉三郎氏へ讓渡し候間向後も拙者同樣御引立被成下度奉懇願候頓首
追て仁川原金旅館とは從前の關係はなきものこ御承知願上候
元原金支店主 **原田政吉**

舞臺開
新築落成
大阪初下り
實川正三郎
阪東太郎
中村長右衛門
每日午後四時開演
京城本町七丁目
大一座
京城座
新築落成
舞臺開

西洋御料理宴會
日本人俱樂部
京城南山町三丁目（電話一二三番）

電話開通六八四番
表具師 **石川辰次郎**
京城曙町一丁目

民刑訴訟鑑定
登記漢城府手續
諸願居代書
土地鑛山測量
集金取立代辨
土地家屋賣買金錢貸借其他諸般ノ仲介
京城本町一丁目 民役所前
岡田事務所
取次電話六二四

山田流 生田流 **琴曲** 新式音譜 **教授**
南山町三丁目九十六番戶
伊藤靜代子

直輸入外國莨御披露
一トルコ紙卷　一エジプト紙卷
一ハバナ葉卷　一マニラ葉卷
其他パイプケース等附屬品一切
右新着純良品特別廉價販賣仕候間續々御用向ノ程奉希上候
京城本町一丁目
トルコ煙草日希商會
D. C. MENEASCO,

日本澤庵
味噌醬油製造
乾物荒物鑵詰
銘茶食料雜貨
漬物問屋 京城本町五丁目
大上商店（電話二五一番）

ワーピキ、シャツ、カラ
西洋洗濯業
旭町二丁目理事廳裏
セル、ラシャ、和洋服
伊丹屋（電話三七四番）

應診療
龍山旭橋通
久木田醫院
入院隨意

●地方より御注文の方は引換小包に應ず料金は殊に弊店にて相働き申候尚御足に合はざるときは御返戻の事

米國製銀判 獨逸製銀判 ボックスキャフ 繡上ゲ靴 **六圓五十錢**
牛裁 ボックスキャフ 繡上ゲ靴 **四圓九十錢**
和キット 繡上ゲ靴 **三圓五十錢**
白縮緬色繡上ゲ靴
ボックスキャフ **五圓**

京城本町三丁目理事廳横通
富田製靴店
京城本町六丁目
富田支店

韓國京城
株式會社 **大韓天一銀行**
電話五五八番

電話開通四九壹番
東京 **生そば**
京城壽町三丁目（高井醫院東隣）
東京庵

株式會社 **第一銀行**
電話番號
第三二一番 國庫部、發行部、營業課、當直用
第三二一番 國庫部、發行部、營業課用
第六二一番 支配人、調査部、文書課用
第三二一番 用度係、分析所用
臨時建築部用

西洋洗濯廣告
時下酷暑の候大方御客樣には益々御勇健奉大賀候降て弊所儀皆々樣の御引立を以て日に年に繁榮に赴き候段難有奉拜謝候弊所は御承知の通り當地に於ける邦人洽く西洋洗濯業の嚆矢にして已に二十有餘年來一意專心斯業に從事し叮嚀迅速は精ね世人の認識せらるゝ所に御座候就て以邦人の發展に鑑み一層業務を擴張し以て勉强可致候間續々御用命被仰附度偏奉希上候也
京城壽町一丁目
有江洗濯所

大韓醫院
漢城病院
各國領事館
御用
齒科全般の治療
米國最新式義齒
米國齒科醫學博士 女醫 **中村安子**
京城本町六丁目（數そば横町）

御旅館並
高等下宿
佐藤旅館
京城旭町二丁目（理事廳東角へ入る）
電話八二八番

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 八拾萬圓
株式會社 **十八銀行京城支店**
京城南大門通 （電話四二〇）
本店 長崎市濱町
支店出張所 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羅州、群山 大阪、熊本、佐世保、鎭南浦 五島、福江
韓國
日本
其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金
一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日步壹錢四厘）
長崎貯蓄銀行代理店
（十八銀行京城支店）

京城西小門通り
京城醫院分院
院長 **菅恒**

洋種 純良 牛乳
取次 電話 七五三番 一七一二番
京城 南大門外 牛井 收場

貸地
一龍山元平式院前軍司令部拾五間道路左側**約五千坪**
但し五十坪を一區として割貸
右將來多望の地貸附申度候條御希望の御方は左記へ御來談被下度候也
京城明治町一丁目
森村太郎
京城本町二丁目
林田金次郎

日本郵船株式會社
仁川瀛船出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通
郡回漕會
電話三九番
京城南大門通
巴商店
電話三〇六番

●釜山長崎門司神戶行
山東丸　九月廿七日　後三時出
●大連、大沽、牛莊行
高砂丸　十月一日　後一時出
山東丸　九月十五日　前五時出
●大連、大沽、牛莊行
酒田丸　九月十日　後一時出
●釜山出帆、元山浦津、浦鹽行
立神丸　九月二日

御注意
御乘船ノ際ハ稅關渡止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

●新聞料（一枚金二錢 一ヶ月前金四十錢 三ヶ月前金壹圓… 六ヶ月前金貳圓 一ヶ月…）
●廣告料（五號活字十九字詰一行一回四十錢 廣告五號活字十九字詰一行金五十錢）
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六三